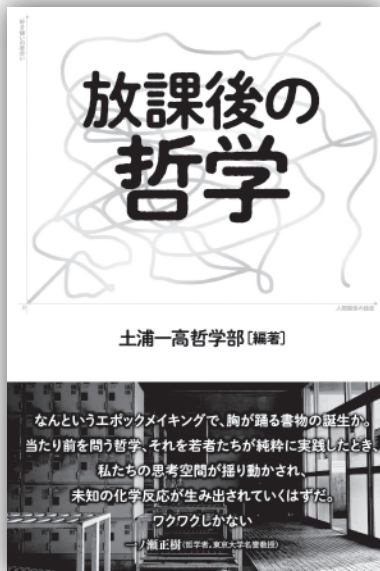


放課後の哲学

高校生の、高校生による、すべての人のための哲学

土浦一高哲学部 編著



2026年9月2日搬入予定

定価：本体1800円＋税
四六判並製・208頁
ISBN978-4-87177-373-7
C0010

編著者●土浦一高哲学部
茨城県立土浦第一高等学校において2025年に創部。
高校生自ら主催する、市民を交えた
哲学カフェを中心に、哲学書読書会
哲学史勉強会・哲学コラム執筆・哲
学散歩など、対話を重視した活動を行
なっている。

「なんというエポックメイキングで、胸が踊る書物の誕生か。当たり前を問う哲学、それを若者たちが純粋に実践したとき、私たちの思考空間が揺り動かされ、未知の化学反応が生み出されていくはずだ。ワクワクしかない」

一ノ瀬正樹 (哲学者。東京大学名誉教授)

日本は哲学不毛の地ともいわれますが、今や各地で哲学カフェが開かれ、子ども哲学に関する本も様々出版されるようになりました。そんな世相の中で、高校生みずから立ち上げ、校内にとどまらず、大人や地域社会を巻き込んでい哲学カフェがあります。

この本は、哲学部として活動を続ける高校生たちによって書き上げられました。私たち大人が忘れてしまった感性に、ほんの少しだけ立ち止まってみてはいかがでしょうか。

大人もティーンエイジャーも、彼ら彼女らのみずみずしい感性の中に見つけられるなにかが必ずある。そんな本になりました。

もくじ

「放課後の哲学」が生まれるまで

放課後の哲学 1 「徳を積む」ことに意味はあるのか／放課後の哲学 2 「みんなと仲良く」を考える

放課後の哲学 3 私を見て／放課後の哲学 4 なぜ私はフィクションを求めるのか

放課後の哲学 5 煩悶させる幸福／放課後の哲学 6 好きな「もの」や嫌いな「もの」とは何なのか

放課後の哲学 7 友だちを定義できるか／放課後の哲学 8 「ほんとうの勉強」とは何か

あの頃の放課後 1 人と向き合う、自分と向き合う／あの頃の放課後 2 傷つくことは変わること

あの頃の放課後 3 つながる 特別寄稿 地方都市の「語るカフェ」

放課後の哲学 9 人として正しい生き方とは？ 放課後の哲学 10 正しさと優しさのあいだで

放課後の哲学 11 言語の壁の消失は私たちに何をもちたか

放課後の哲学 12 自分を「正しく」評価することはできるのか

放課後の哲学 13 私のものの見方とその改革／その後の放課後 1 銃口を探しても幸せは見つからない

その後の放課後 2 楽をしないで生きる

放課後のトピックス 哲学部のつくり方／おわりに 日常の中の哲学

発行／発売：あっぷる出版社
〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-6
tel.03-3261-1236
URL:<https://applepublishing.co.jp/>

ファクシミリ:03-6261-1286

●新刊 (2026年9月2日搬入予定)

※新刊委託 (指定締切：8/24)

※常時返品可 (期限なし)

帳合：ト・ニ・楽・中・協・鋏・JRC・東官書

【新刊】あっぷる出版社注文書

番線・貴店名

放課後の哲学

ISBN978-4-87177-373-7 C0010

土浦一高哲学部／編著

定価：本体1800円＋税

四六判並製／208ページ

冊

新刊